

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者:70代 男性 要介護4

病名:右脳出血

利用サービス:入所

経過:令和2年8月から令和2年11月1度目の入所(個室)退所後は階段昇降が思った以上に困難で外出かなわず室内での生活が中心となり廃用が進行しリハビリテーション目的で令和3年2月に再入所(個室)となった。

内 容

当老健の慢性期での攻めのリハビリテーションを希望され、今回自宅から再入所されました。

入所時は発語が少なく、表情も乏しく、会話の聞き取りも困難でした。

食事中の食べこぼしやマスク内の唾液による汚染が著しい状態でした。そこで、昨年度に発足した嚥下チームを中心にリハビリテーションプログラムを作成しました。

歯科衛生士による器具を用いた口腔周囲筋のトレーニング、NSによる間接訓練、CWによる音読の介入、リハビリスタッフによる座位時のポジショニングの見直しを行いました。

ご本人からも『北原白秋 五十音』好きなんですと自ら音読する様子が見られています。

家族指導の際に「言葉が聞き取りやすくなりました。」「元気なときの主人の顔に戻りました。」と奥様が喜ばれていました。自宅退所後には、お孫様と北原白秋の五十音の音読を一緒にすることを今から楽しみにしています。

自宅での介護量を軽減させ、ご夫婦で楽しく過ごせる時間を作るために当老健での1日2時間の個室リハと多職種で連携した介入により、奥様からは「ここがあるので自宅での介護が頑張れます。」と3か月後のリピーターを希望されています。

ご夫婦で過ごす時間に希望を持って在宅復帰できた事例。